

# 平成29年度 事業報告書

指定特定施設入所者生活介護事業所 大慈吉祥園

## 1. <基本方針>

法人の基本方針である「和顔愛語」「上敬下愛」に基づき、ゲストが施設の中で人間として尊厳を保ち、健やかで快適かつ生きがいのある生活が営めるように努める。また、措置施設として地域社会における役割を果たせるように努める。

## 2. <長期目標>

- ①ゲストに安心・安全・清潔・安らぎのある環境を提供する
- ②職員は法令を順守し、人としての尊厳を守り、敬愛の念をもって行動する

## 3. <中期目標>

職員が安心して前向きに働くことのできる環境と、一人一人が主体性をもって仕事に取り組める職員集団を目指す

## 4. <年度目標>

※リスクマネジメントの管理においては大慈吉祥園に準ずる

### ① 情報の共有を徹底させる

共有に関する自己チェックシート（1回/2ヶ月）は、実施できている。正解率も次第に高くなってきている。開始直後は正解率50%ほどであったが、間違いを修正し再提出することで、最終的には全体正解率が82%まで上がってきた。ルールブックの作成も進み、14項目までできている。今後も生かせるようにしていきたい。統一した記録に関しては、記録の練習を実施し各自個別で指導している。次年度も継続して実施していきたい。ゲスト・ご家族とのコミュニケーションに関しては、常に意識し、相談事項、報告などで連絡を取り、記録に残すように努めている。また、コミュニケーション強化週間を設け、担当とゲストとの信頼関係をつくるきっかけづくりになっている。

### ② 介護サービスの調整・管理と給付管理

介護サービス管理に関して、モニタリングはしっかりできるようになってきているが、日中のゲストの様子をまとめて記録していたり、「自分のペースで過ごされる」などの曖昧な表現などがあったが、個別指導により改善されてきている。記録の漏れは、少なくなっているが、まだ見られる。3日間の申し送り、個別の指導で度々伝えているため、昨年度に比べると早く記入できるようになった。また、サービス提供記録が苦手で、後回しになる職員もあることから、個別の指導は今後も必要と思われる。昨年度より、サービス提供記録を変更し、ケアマネ出勤時に記録ができているかのチェック・確認作業をおこなっているため、改善はしてきている。

## 5. <職員体制>

管理者 1名	介護支援専門員 1名（相談員兼務）	支援員 7名
	相談員 1名（吉祥園主任相談員兼務）	

## 6. 《要介護度状況》

平成30年3月31日現在

項目	女	男	計
その他（非該当）	6	1	7
要支援1	2	2	4
要支援2	5	2	7
要介護1	18	5	23
要介護2	9	3	12
要介護3	7	4	11
要介護4	5	1	6
要介護5	0	0	0
合計	52名	18名	70名
平均要介護度	1.79		

## 7. 《総括》

年度目標である遠藤メソッド推進に関しては、予定通りの達成が見られた。ほぼ全職員が介護技術標準書を作成するまでに至ったが、数が限られたこともあり、繰り返し作成していく必要がある。決めたことを徹底させることはまだまだ不十分で、センサー忘れなどにより事故を未然に防げなかったことも反省点の一つである。情報の共有に関しては、報連相、3日間の申し送り、記録の仕方など、日々の業務の中で取り入れてきた。常に情報の共有を伝えてきたことで職員の意識は高くなり、一定の成果は見られた。しかし、業務内容だけではなく、介護の知識や技術、緊急時の対応など介護士としての共有すべきことに関しては、未熟さを感じる。新人が多かった職場ではあるが、介護福祉士も今年度3名増やし、あと2名の達成で全員が資格を持つことになる。養護の特性から知識・技術において経験することは少なかったこともあるが、特定で52名のゲストが介護保険を利用し看取りのゲストも多くなった。知識・技術だけでなく、適応能力も学んでいく必要がある。サービス提供に関する管理は、漏れなど無くすために、細々と改善させてきた。次年度も継続させていきたい。